

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2016 年度（後期）
一般公募「在宅医療研究への助成」完了報告書

「地域で暮らす精神疾患やメンタルヘルス不調を抱える若年無業者の
ストレス対処力に着目した就労支援を促すためのプログラム開発と評価」

申請者：萩 典子
所属機関：四日市看護医療大学
提出年月日：2018 年 3 月 19 日

はじめに

精神医学領域においては、精神疾患やメンタルヘルス不調を呈する若者への早期支援の重要性が強調されており、予後やその後の社会生活に影響すると言われている。早期介入の取り組みは進んできており、治療はかつての日本の歴史的な入院治療中心という考え方から、家族や住み慣れた地域で暮らすことを継続できることをめざしている。

また国の施策として厚生労働省は、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）¹⁾の構築をすすめると同時に精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて動いており、そのためにも精神障害者の支援の障害特性や支援技法を学ぶ研修などが地域生活支援事業の中で追加されている²⁾。

精神疾患やメンタルヘルス不調を抱える若者（以下若者とする）の中には、就労しないままに、ニートあるいはひきこもり生活を送っている若年無業者は少なくない。無業状態が長期化することにより、社会参加の機会を逸し、自立を妨げるだけでなく精神症状や家族機能へも影響し家族の崩壊につながる可能性もある。地域で暮らす若者にとっては、今後の地域生活を支えるためにも就労の問題は重要であるといえる。

わが国においては、就労について困難な状況にある若年無業者を対象とした取り組みが展開されており、厚生労働省では平成18年度から「地域若者サポートステーション」を中心とした若者自立支援のためのネットワークを整備し、支援を開始している³⁾。サポートステーション（以下サポステとする）では、支援対象者を把握すること、個別相談、様々な自立支援プログラムの提供、家族へのサポート、支援機関との連携など幅広い取り組みがなされている。

筆者らは、実際にサポステにおいて相談や自立支援プログラムの実施、相談員へのスーパーバイズにかかわっている。サポステ利用者の中には狭義の精神疾患を有する場合や、様々な病態や状況から「ひきこもり」を経験した人たちや日常生活を送る上で対人交流がとれず生きにくさを体験しながら生活している人も対象としている。地域では精神科訪問看護など、本人及びその家族に対する支援を積極的に展開し、症状コントロール、治療の継続などには効果が上がっている。しかし若年者にとっては、地域生活を送る上では疾患だけでなく、就労を含めた支援が重要となる⁴⁾。現在、職場において精神健康を保つことや、慢性疾患をコントロールしていくことなどに健康を維持・促進させるためのストレス対処力

（sense of coherence :以下SOCとする）に着目した研究が数多くなされ、SOCは生きる力に近いといわれている。イスラエルの健康社会学者アントノフスキーによって提唱された概念で、健康を保持しようとする力に着目した健康生成論の中核概念である⁵⁾。これまで、対象やその家族がかかえる問題に焦点を合わせ支援の取り組みを行ってきたが、SOCに着目し、遭遇する問題に立ち向かっていく力をつけることに重点をおいた新しい取り組みが必要である。就労とSOC、また支援の取り組みの効果と支援内容との関連を明らかに

することで、具体的で実効可能な効果的支援につながり、無業の若者の自立を促進できると考えた。

筆者らはその考えをもとに約3年間、精神疾患を抱えた地域で暮らす若者にグループでの取り組みを行ってきた。そのプロセスで、対象からニーズを把握し修正しながら、支援プログラム実施してきた。その経験を生かし、さらに効果的なプログラムを実施していきたいと考える。同時に支援のアウトカムとしてSOCや肯定的変化感(perceived positive change:以下PPC)⁶⁾を用いることができると考え、どのような取り組みがSOCやPPCに関連するのかを明らかにしたいと考える。より効果的なプログラムを実施できることで、ストレス対処力SOCを高めることにつながり、地域で暮らす精神疾患やメンタルヘルス不調を抱えた若者の自立を促進でき、より質の高い地域生活の継続に結びつくことにつながる。本研究ではSOCを高めるための実効可能なプログラムの開発をめざし地域で暮らす精神疾患やメンタルヘルス不調を抱える若年無業者を対象に、利用者の特性を明らかにするための実態調査とピアグループのプログラム実施とその評価を行うことを目的とする。

A. 地域若者サポートステーションを利用している若年無業者の特性に関する探索的研究

I. 研究目的

地域若者サポートステーションを利用している利用者の特性を明らかにする。

また、SOCに着目し、利用者の特性別のSOCの特徴を明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究対象

東海地方のA県のサポステ4か所を平成29年6月から平成29年11月に利用した利用者のうち研究同意の得られた利用者に配布した。協力依頼はバイアスがかからないように、相談員を除く、事務職員に依頼した。131名から回答が得られた。ただし研究期間中のサポステ利用者の人数は公表されていない。

2. 調査内容

基本属性(年齢、性別)、精神疾患の有無、就労経験の有無等、日常生活、就労意欲、精神健康度(GHQ)、ストレス対処力(SOC)、肯定的変化感(PPC)等を自記式調査票を用いて調査し、留置で回収した。

精神健康度(GHQ)はGoldbergが開発した一般健康調査(General Health Questionnaire:GHQ)⁷⁾の短縮版である12項目版⁸⁾を用い、4件法でたずね、1~4点で得点化しそれぞれ単純加算した。合計点数が高いほど、精神健康度が悪いことを示す。質問紙は日本文化科学社の日本版GHQ12調査票を使用した。

ストレス対処力(SOC)はAntonovskyにより開発されたSOCスケールをもとに山崎らが作成した日本語短縮版SOC尺度⁹⁾を用いた。この尺度は13項目から構成される7段階のSD法で、SOC得点が高いほどストレス対処能力が高いことを示す。

肯定的変化感(PPC)はストレスフルな出来事や状況に関して調査時点までの肯定的変化に

着眼したものである。山崎らが開発した 10 項目からなる尺度を承諾を得て、対象に合わせた表現の 9 項目にした。「得られなかった」～「得られた」の 5 件法できき、1～5 点で得点化しそれぞれ単純加算した。合計得点が高いほど肯定的変化感が高いことを示す。

リラックス感尺度¹⁰⁾は小池らが作成した「緊張因子」「気分因子」「身体感覚因子」の 3 要因、15 項目からなる尺度を使用した。「とてもよくあてはまる」～「まったくあてはまらない」の 5 件法できき、5～1 点で得点化し、単純加算した。合計得点が高いほど、リラックス感が高いことを示す。

3. データ分析方法

サポステ利用期間、就労意欲と他の変数との関連を検討するために、カテゴリ変数の群比較にはそれぞれの群の平均、標準偏差を算出し、Mann-Whitney の U 検定、Kruskal Wallis 検定を行った。連続変数は Spearman の順位相関係数を算出した。

就労経験と相談回数、就労していない理由と他の変数との関連の検討には、カテゴリ変数はクロス集計、カイ二乗検定を行った。連続変数には、Pearson の相関係数、Spearman の順位相関係数を算出した。

SRH、GHQ、SOC、PPC、リラックス感尺度、リラックス感尺度の 3 下位尺度同士の関連を検討するために、Pearson の相関係数を算出した。

利用者の年齢、サポートステーション利用期間に着目して利用者を分類し、群ごとに SOC と他の変数との関連を検討する。それにより利用者の特性別の SOC の特徴を明らかにすることを目的に、

①年齢については 30 歳未満と 30 歳以上、サポートステーション利用期間については、中央値 7 を目安に 7 か月未満 7 か月以上に分類した。

②全体、年齢 2 群、利用期間 2 群、年齢 2 群と利用期間 2 群を組み合わせた 4 群ごとに、度数、SOC の平均、標準偏差を算出した。

③全体、年齢と利用期間を組み合わせた 4 群ごとに以下の分析を行った。SOC と性別、サポステ相談回数との関連の検討に、度数、平均、標準偏差を算出し、対応のない t 検定を行った。また、就労している理由、生活状況との関連は度数、平均点、標準偏差を算出し、一元配置分散分析を行った。就労意欲との関連はスピアマンの順位相関係数、SRH、GHQ、PPC、リラックス感及びその下位尺度との関連にはピアソンの積率相関係数を算出した。

統計学的な有意水準を 5%とした。解析には IBM 社 SPSS Statistics20 を用いた。

III. 倫理面での配慮

調査用紙には研究の趣旨、概要、回答は自由意志であること、プライバシーの保護、結果の公表等を文書に示し、調査用紙に同封した。回答をもって同意とみなした。実施に当たっては四日市看護医療大学研究倫理委員会の承認を得た。本研究において利益相反事項とし

て開示するものはない。

IV. 結果

1. 基本属性

対象者の属性は表 1 に示す通り、平均年齢は 28.2 ± 6.0 歳であり、17 歳から 41 歳までの年齢であった。男性が 45 名 (34.4%)、女性が 86 名 (65.6%) であった。

サポステの利用期間は平均 13.3 ± 17.6 か月で相談回数は平均 6.7 ± 10.5 回であった。

就労経験は、110 名 (84.0%) がありと回答しており、21 名 (16.0%) が就労経験はなかった。

48 名 (36.9%) が治療中の病気があると回答しており、7 名 (5.4%) が以前は治療していたが現在はしていないと回答していた。

2. サポステ利用期間との関連要因 (表 2)

サポステ利用機期間との関連においては表 2 が示すとおりであり、女性の方が男性と比較して、サポステ利用期間が有意に長かった。

就労意欲が低い利用者ほど、有意にサポステ利用期間が長かった。

相談回数が 10 回以上の利用者は、10 回未満の利用者より有意にサポステ利用期間が長かった。

相関係数は小さいが、GHQ とは有意な正の相関が認められ、PPC、リラックス感の気分因子とは有意な負の相関が示された。

3. 相談回数別の回答者特徴 (表 3)

相談回数別の回答者特徴は表 3 に示すように、)女性は男性より相談回数が 10 回以上の割合が有意に高かった。

相談回数が 10 回以上の利用者は 10 回未満の利用者より、有意にサポステ利用期間が長かった (表 2 同様)。

相談回数が 10 回未満の利用者は、10 回以上の利用者と比較して、有意にリラックス感尺度の気分因子が高かった。

4. 就労経験の有無別回答者の特徴 (表 4)

就労経験の有無別回答者の特徴は表 4 に示した。就労経験がある人のほうが、有意に年齢が高かった。その他の変数は就労経験の有無で有意な差は認められなかった。

5. 就労意欲の関連要因 (表 5)

就労意欲の関連要因は表 5 に示した。サポステ利用期間が長い利用者ほど、有意に就労意欲が低かった。GHQ とは負の相関、SRH、PPC、リラックス感、リラックス感下位尺度の気分因子とは有意な正の相関が認められた。

6. 就労していない理由別回答者の特徴（表 6）

就労していない理由について各選択肢の集計を実施した。無回答の回答者の特徴も明らかにするため、「無回答」というカテゴリーとして分析し表 6 に示した。

「仕事が続けられそうにないと思うため」と回答している利用者より、無回答の利用者は有意に就労意欲が高かった。

相談回数が 10 回未満の利用者では、「さがしたが見つからなかった」と回答した人の割合が高いが、10 回以上では無回答の割合が高かった。

「病気や体調が悪いため」と回答した利用者は、「その他」と回答した利用者より、有意に SRH が低かった。

7. 主観的健康観（SRH）、精神健康、ストレス対処力（SOC）、肯定的変化感 PPC）、リラックス感の心理尺度感の関連（表 7）

各心理尺度間の関係を表 7 に示した。リラックス感の身体感覚因子を除くすべての尺度間で相関係数は有意であった。

リラックス感尺度 total、気分因子、緊張因子は、GHQ と比較的高い負の相関が、SOC と比較的高い正の相関があった。リラックス感 total と気分因子は PPC とともに正の相関がみられた。

GHQ と SOC は高い負の相関が認められた。

リラックス尺度 total は、その下位尺度との関連をみると、緊張因子と最も相関が高く、身体感覚因子との相関が最も低かった。また、下位尺度同士では、気分因子と緊張因子は高い正の相関があったが、どちらも身体感覚因子との相関は低かった。

8. SOC 得点（表 8）と利用者年代、利用期間別 SOC の特徴（表 9）

群ごとの SOC 得点は表 8 に示すとおり、30 歳以上の利用者は 46.31 ± 9.75 、30 歳未満は 48.20 ± 11.03 であった。

利用期間では 7 ヶ月未満では 48.06 ± 10.07 、7 ヶ月以上では 46.66 ± 11.10 で統計的には有意ではないが、長い利用者の方が平均得点は低い傾向にあった。

4 群別では、30 歳未満では利用期間に関わらず SOC 得点は同等であったが、30 歳以上になると、利用期間が短い利用者は 47.86 ± 10.07 利用期間が長い利用者は 44.42 ± 9.84 と SOC 得点が低い傾向にあった。

利用者年代、利用期間別の SOC の特徴としては表 9 に示すとおり、いずれの群においても、統計的には有意で歯に阿が、平均得点は男性の方が低い傾向になった。女性については 30 歳以上利用期間長が他の郡と比較して低くなっていた。

就労意欲は、30 歳未満利用期間でのみ有意な相関があった。

サポステ相談回数は、ほとんどの群において、差はないが 10 回以上の方は SOC 平均得点が低い傾向、就労経験についてもほとんどの群で差がない、もしくは就労経験なしの方が

低い傾向があったが、30歳未満利用期間長の群のみ利用期間10回以上、就労経験なしの群がSOCが高かった。

就労していない理由は、いずれの群でも有意な差はなかったが、就労していない理由ごとのSOC平均得点の高低の特徴は、群ごとに異なっていた。

生活状況は全体、30歳未満利用期間短の群で「規則正しい」が「ほぼ規則正しい」「あまり規則正しくない」より、また30歳以上利用期間長の群で「規則が出しい」が「ほぼ規則正しい」より有意に高かった。その他の群でも、有意ではないが「規則正しい」ほうがSOC得点は高かった。年齢やサポステ利用に関わらず、生活状況を整える事がSOCを高める支援として奏功する可能性が示唆される。

GHQは30歳未満利用期間長を除いて有意な相関が認められた。一般的にはSOCとGHQは相関があることが知られており、今回の分析でも30歳未満利用期間長を除いては相関が認められた。30歳未満利用期間長のみ相関が認められなかった理由については、今回の分析では明らかになっておらず、さらに詳細な検討が必要である。

PPCは30歳未満利用期間短でSOCと高い相関が認められた。30歳未満に早期にPPCに着目した介入を行う事でSOCを高める支援に繋がる可能性が示唆される。

リラクセス感は、いずれの群でも有意な相関が認められたが、特に30歳未満利用期間短で高い相関があった。気分因子、緊張因子もほとんどの群で有意な相関があったが、身体感覚因子は30歳未満利用期間短でのみ相関があった。

V. 考察

〈対象者の属性〉

対象者の属性は表1に示す通り、平均年齢は 28.2 ± 6.0 歳であり、17歳から41歳までの年齢であった。男性が45名(34.4%)、女性が86名(65.6%)であった。厚生労働省の若年務業者の定義は15~34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者となっているが、17歳から41歳とさらに幅広い年齢の人がサポステを利用していることがわかった。サポステの利用期間は平均 13.3 ± 17.6 か月で相談回数は平均 6.7 ± 10.5 回であった。

就労経験は、110名(84.0%)がありと回答しており、8割以上の利用者が何らかの形態で就労経験があることが明らかとなった。

治療中の病気に関しては48名(36.9%)があると回答しており、7名(5.4%)が以前は治療していたが現在はしていないと回答していた。治療中、以前治療をしていた人を含めると4割を超え、疾患やそれぞれが抱える症状などを考慮した細やかな支援が重要である¹⁴⁾。

〈サポステ利用期間との関連要因、相談回数別の回答者特徴〉

サポステ利用期間には性差が認められ、女性の方が利用期間が長かった。利用期間と相談回数は当然ではあるがよく関連していた。

相関は小さいものの、精神健康状態をはじめ心理状態が悪い利用者ほどサポステ利用が長

期にわたる傾向が示された。

表 2.3 が示すように、精神状態が良好で、特に気分的にリラックスした状態の人ほど、サポステ利用期間は短く、相談回数も少ないことが示された。

〈就労経験の有無別回答者の特徴〉

過去あるいは現在の就労経験の有無と、現在の心理的状況やサポステの利用状況との関連は示されなかった。

〈就労意欲の関連要因〉

リラックスし、心身の状態が良好な利用者ほど、就労意欲が高く、サポステ利用が短期間であることが示された。サポステ利用期間が長い利用者ほど就労意欲が低いことから、就労意欲が高くサポステ利用期間が比較的短いものが早期のうちに就職先が見つかり、そうでないものはサポステ利用期間が長期化するという可能性が示唆され、その結果として心身の状態が良好でない人のサポステ利用が長期化する、という構造になっている実態が推察される。

〈就労していない理由別回答者の特徴〉

統計的に有意ではないため、慎重な検討が必要であるものの、就労していない理由ごとの特徴については、「現在働いている、または仕事につくことが決まっている」と回答した利用者は、比較的 SOC、PPC が高く、GHQ が低いことから、精神的に安定した状態にあることが伺われる。

一方で、「病気や体調が悪いため」と回答した利用者は、SRH が低く、GHQ が高く、リラックス感が低い。また、「仕事を続けられそうにないと思うため」「急いで仕事につく必要がないため」と回答している利用者は、SOC、PPC が低い。

以上より、「病気や体調が悪いため」「仕事を続けられそうにないと思うため」「急いで仕事につく必要がないため」といった理由の人々に対しては、体調の安定や、精神健康、SOC、PPC を高めるようなサポートが必要とされていることが示唆される。

「希望する仕事が見つからない」と回答した利用者は、サポステ利用期間は長いですが、SOC、リラックス感が比較的高いことから、一般的な就職支援が奏功する可能性が高いと思われる。一方、「さがしたが見つからない」と回答した人たちは、GHQ が高く、SRH、PPC が比較的低く、精神的に不安定な状況であることが伺われる。したがって「さがしたが見つからない」と回答している利用者は、仕事のマッチングを求めているというよりは、メンタルヘルスに着目したサポートを提供する事で効果的な就職支援になる可能性が示唆される。

〈主観的健康観 (SRH)、精神健康、ストレス対処力 (SOC)、肯定的変化感 PPC)、リラックス感の心理尺度感の関連〉

リラクセス感 total は、身体感覚因子との関連が比較的低いことから、緊張感や気分的なリラクセス感をより強く反映した尺度であることが示唆された。

リラクセス感の特に気分因子がサポステ利用状況（表 2、3 より）や就労意欲（表 5 より）と関連していたことから、気分的にリラクセス感を高められるようなサポートが、サポステ利用者を早期の就労に結びつけるための有効な手段になる可能性が示唆される。

また、リラクセス感（特に気分因子と緊張因子）に関しては、本研究では GHQ や SOC、PPC と関連が認められたことから、心理的にリラクセスした状態を維持することで、SOC を高め、精神健康が改善し、物事を肯定的に捉えられるようになる可能性が考えられる。

〈利用者の特性別の SOC の特徴〉

SOC と他の変数との関連は群ごとに様々に異なる特徴を示していた。

30 歳未満利用期間短では、他の心理尺度との相関が比較的高く、SOC の向上と SRH や GHQ、PPC の向上が連動しやすく、他の群に比べ効果的な介入効果を期待できる可能性がある。

30 歳未満利用期間長については、GHQ との相関がない、唯一就労意欲との相関がある、またサポステ相談回数や就労経験との関連が他の群と異なるといった点で、他の群と特に異なる特徴を示していた。この群に対しては、メンタルヘルスや就労意欲以外の要因に着目した支援の効果がある可能性が示唆される。

30 歳以上利用期間短においては、GHQ、リラクセス感との相関は認められたが、他の変数との関連は示されず、比較的其他の要因の影響を受けにくい可能性が示唆された。

30 歳以上利用期間長においては、全体的に SOC 得点が低く、これらの利用者の SOC を高めることは重要であると考えられる。

これらの結果から、利用者の年代、利用期間に着目して群毎に異なった SOC 向上を目指した介入を行う事で介入効果を高められる可能性が示唆される。

リラクセス感はいずれの群でも有意な相関があり、下位尺度では気分因子、緊張因子はほとんどの群で有意であった。リラクセス感、特に緊張緩和、気分的なリラクセスをもたらすようなサポートが SOC 向上のために有効である可能性が考えられる。今回の群別分析結果と合わせて考察すると、リラクセス感を高める介入は、多くの利用者に対して効果があり重要な役割を果たす可能性が考えられる。

以上の群別の分析結果より、利用者特性に応じた支援を行うことが、SOC を高め、効果的な就労支援に繋がる可能性が示唆される。

ただし、今回の調査は縦断調査であり本結果のみではサポステ利用の影響が明らかになったとは言えないため、因果関係を検証するために、さらなる調査が必要がある。

VI. 結論

地域若者サポートステーションを利用している利用者の特性及び支援としては

- ①精神健康状態をはじめ心理状態が悪い利用者ほどサポステ利用が長期にわたる傾向が示された。
- ②精神状態が良好で、特に気分的にリラックスした状態の人ほど、就労意欲が高く、サポステ利用期間は短く、相談回数も少ないことが示された。
- ③サポステ利用期間が長い利用者ほど就労意欲が低いことから、就労意欲が高くサポステ利用期間が比較的短いものが早期のうちに就職先が見つかり、そうでないものはサポステ利用期間が長期化するという可能性が示唆された。
- ④現在、就労していない理由の特性からは「さがしたが見つからない」と回答している利用者は、GHQ が高く、SRH、PPC が比較的低く、精神的に不安定な状況であることが伺われ、仕事のマッチングを求めているというよりは、メンタルヘルスに着目したサポートを提供する事で効果的な就職支援になる可能性が示唆される。
- ⑤30 歳未満、利用期間が短い利用者群では、GHQ、PPC の心理尺度との相関が比較的高く、SOC の向上と SRH や GHQ、PPC の向上が連動しやすく、他の群に比べ効果的な介入効果を期待できる可能性ある。
- ⑥30 歳未満、利用期間が長い利用者群については、GHQ との相関がない、唯一就労意欲との相関があり、この群に対しては、メンタルヘルスや就労意欲以外の要因に着目した支援の効果がある可能性が示唆される。
- ⑦リラックス感はいずれの群でも有意な相関があり、リラックス感、特に緊張緩和、気分的なリラックスをもたらすようなサポートが SOC 向上のために有効である可能性が考えられる。

B. ピアグループのプログラム実施とその評価

I. 目的

ピアグループのプログラム学習の効果を SOC に着目して明らかにする

II. 研究方法

1. 研究対象者

東海地方の A 県の B 市にあるサポステで、平成 29 年 2 月から 12 月にピアグループのプログラムに参加した、利用者 24 名を対象とした。

2. 研究方法

プログラムは約 2 ヶ月に 1 回、計 5 回開催し、協力の得られた参加者に実施前後で自記式調査用紙を用いたアンケート調査を行った。

ピアグループでのプログラムは「チェンジカフェ」と命名し、仲間との交流体験の少ない参加者にお茶とお菓子を提供する茶話会方式をとりながら、グループ学習を実施した。筆者らはグループのファシリテーターの役割と参加者としての役割を持ち、参加者とともに時間場所を共有した。ピアグループは対象者の特徴から、体調が良いときに自由に参加できるよう、事前に希望を募るが、実施日に都合や体調が良い場合に参加できるようにした。

プログラム内容はリラクゼーション効果を狙ったストレッチやタッピングタッチを最初の30分取り入れた。次に参加者が遭遇しやすい職場での状況を設定し、イラストで表現した状況設定シートを用いた共同学習をねらいとしたグループワークを実施した。状況設定シートに関しては、いくつかのパターンを用意しその日の参加者のニーズを聞きシートを選んでもらった。

グループワークはまず参加者が選んだ状況に関して当事者としての立場で、自分の思いや考えをそれぞれが付箋に記入し、1枚ずつ順番に白紙のシートに貼っていった。次にどのようにすれば良いかなどの対応について同様に考え、付箋をシートに貼り、グループで共有した。状況によっては相手の立場になって考えることや、対応はわかってもらえないことなどの思いも出し合い、グループで考えていった。

2. 調査項目

基本属性（年齢、性別）、精神疾患の有無、就労経験の有無等、日常生活、就労意欲、精神健康度(GHQ)、ストレス対処力(SOC)、肯定的変化感(PPC)、等を自記式調査票で調査し、留置で回収した。

3. データ分析方法

基本集計を行い、属性及び就労経験、GHQ、PPCなどのSOCへの影響を検討するために、SOCを従属変数とした重回帰分析を行った。またプログラムの効果として参加者のプログラム実施前後のSOCの差があるかどうかについてはt検定を行った。

III. 倫理面での配慮

プログラムへの参加は自由意思であり、参加しなくてもなんら影響を受けないこと、途中で参加を取りやめることができることを説明した。調査用紙には研究の趣旨、概要、回答は自由意志であること、プライバシーの保護、結果の公表等を口頭と文書で説明した。調査用紙は回答をもって同意とみなした。実施に当たっては四日市看護医療大学研究倫理委員会の承認を得た。

IV. 結果

1. 対象の属性・特性（表10）

プログラムの参加者は表1に示すとおり、男性16名、女性8名、平均年齢は 26.9 ± 6.7 歳で18歳から37歳までであった。

就労経験は19名79.8%があると回答した。治療中の病気があると回答したのは5名21.7%であった。

GHQは平均 13.0 ± 5.2 でPPCは 30.7 ± 7.0 であった。GHQ得点を0-0-1-1点で得点化し3/4点間でcut off pointを設定し、不健康群と健康群に分けた結果、12人(52.2%)が不健康群であった。

2. SOCに関連する要因（表11）

SOC に関連する要因としては表 11 に示すとおり、就労経験の有無が有意に負の関連 ($p<0.05$) を示していた。

3. プログラム実施前後の SOC の変化 (表 12)

プログラム実施前後の SOC は表 12 に示すとおり、実施前は 50.8 ± 10.0 、実施後は 54.4 ± 11.3 で有意に SOC 得点が上がっていた ($p<0.01$)。

V. 考察

1. 対象の属性・特性

プログラム参加者の平均は 26.9 歳であり、18 歳から 37 歳まで幅広い年齢のサポステ利用者が参加していた。

約 8 割が就労の経験があるが 2 割は経験がなく、プログラムで使用している状況設定シートの事例は、すべての参加者がイメージしやすいものを作成することが重要である。

GHQ 得点は平均 13 点であり、不健康群は約 5 割であり、我々がサポステで 2013 年に実施した調査結果⁴⁾ に比べて、点数は低い傾向にあり、プログラム参加者はサポステ利用者の中でも精神健康度が高い傾向にあることが示唆される。

2. SOC に関連する要因

SOC に関連する要因としては就労経験があることと有意に負の関連があることが明らかになった。一般的に SOC 研究においては、SOC は質の高い経験を繰り返し積むことで発達するとされている。自分自身が求められる要求に応えられないことや、資源を十分に生かすことができないという、負荷の経験も重要なことが示されている¹³⁾。対象者にとっては就労経験が負の経験のままに止まっており、その経験を生かすことが出来ていないことが推測できる。このことから今後は PPC にも引き続き着目していくことや、プログラムの中で、今までの経験から具体的な状況を事例として取り上げ、経験の意味を振り返ることで、質の高い経験として再構成する機会をもつことの重要性が示唆された。

3. プログラム実施前後の SOC の変化

本研究の対象者においてはプログラム前後で SOC 得点が有意に上昇したと言える。しかし SOC の向上には様々な要因が関連しており、本調査では対照群はないために、本プログラムが SOC 向上に効果があったとは言えないが、上昇の一助になったことは示唆されたであろう。

今後は引き続きプログラムを実施し、効果を縦断的に調査していくことが必要となる。

VI. 結論

本ピアグループの対象者は GHQ 尺度における不健康群が約 5 割であり、2 割が治療中の病気が存在していた。

SOC に関連する要因としては就労経験が負に有意に影響していた。

SOC についてはプログラム実施前後で有意に得点が上昇した。

本研究では対照群はなく、本プログラムの効果があったとは言うことはできないが、効果に資することはできたと考える。

まとめ

以上の分析結果より、明になった利用者特性に応じたきめ細やかな支援を行うことが、SOC を高め、効果的な就労支援に繋がる可能性が示唆された。また利用者特性では共通してリラクゼーションとの関連が見られたため、プログラム中でのリラクゼーションの活用は今後継続し、効果を検証していく。

謝辞

なお本調査・研究は 2016 年度公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団「在宅医療研究への助成」を受けて実施したものである。

表1 対象者の基本属性・特性

年齢 (N = 131)		28.2±6.0 (range:17-41)
性別 (N = 131)		
	男性	45 (34.4)
	女性	86 (65.6)
サポステ利用期間 (月) (N = 128)		13.3±17.6 (range:1-96)
相談回数 (N = 129)		6.7±10.5 (range:1-75)
就労経験 (N = 131)		
	あり	110 (84.0)
	なし	21 (16.0)
治療中の病気 (N = 130)		
	あり	48 (36.9)
	なし	75 (57.7)
	以前治療していた	7 (5.4)

注) 表中の数字は平均±SD またはn (%)を表す

表2 サポステ利用期間

		平均/ ρ	SD	p
性別 ^{a)}	男性 (n=44)	11.82 ±	20.37	*
	女性 (n=84)	15.01 ±	15.94	
年齢 ^{b)}		$\rho =$ 0.120		n.s
就労意欲 ^{b)}		$\rho =$ -0.218		*
サポステ相談回数 ^{a)}	10回未満 (n=61)	5.57 ±	11.45	***
	10回以上 (n=66)	21.70 ±	18.85	
就労経験 ^{a)}	あり (n=108)	15.00 ±	18.54	n.s
	なし (n=20)	8.05 ±	9.22	
生活状況 ^{c)}	規則正しい (n=25)	13.20 ±	19.85	n.s
	ほぼ規則正しい (n=65)	15.65 ±	19.34	
	あまり規則正しくない (n=31)	12.03 ±	12.63	
	昼夜逆転 (n=4)	9.50 ±	12.26	
SRH ^{b)}		$\rho =$ -0.140		n.s
GHQ ^{b)}		$\rho =$ 0.202		*
SOC ^{b)}		$\rho =$ -0.146		n.s
PPC ^{b)}		$\rho =$ -0.182		*
リラックス感 ^{b)}		$\rho =$ -0.133		n.s
一気分因子 ^{b)}		$\rho =$ -0.176		*
一緊張因子 ^{b)}		$\rho =$ -0.026		n.s
一身体感覚因子 ^{b)}		$\rho =$ -0.020		n.s

注1) a) Mann-WhitneyのU検定、b) Spearmanの相関、c) Kruskal-Wallis検定

注2) * p<0.05、** p<0.01、*** p<0.001 n.s. not significant

表3 相談回数

		10回未満 (n=62)		10回以上 (n=67)		p
性別 ^{a)}	男性	28	(63.6%)	16	(36.4%)	*
	女性	34	(40.0%)	51	(60.0%)	
年齢 ^{b)}		28.27 ±	6.01	28.13 ±	5.22	n.s
就労意欲 ^{c)}		8.08 ±	1.48	7.07 ±	2.74	n.s
サポステ利用期間 ^{c)}		5.57 ±	11.45	21.70 ±	18.85	***
就労経験 ^{a)}	あり	52	(48.1%)	56	(51.9%)	n.s
	なし	10	(47.6%)	11	(52.4%)	
生活状況 ^{a)}	規則正しい	16	(61.5%)	10	(38.5%)	n.s
	ほぼ規則正しい	27	(41.5%)	38	(58.5%)	
	あまり規則正しくない	16	(50.0%)	16	(50.0%)	
	昼夜逆転	2	(66.7%)	1	(33.3%)	
SRH ^{b)}		3.33 ±	0.98	3.24 ±	0.91	n.s
GHQ ^{b)}		15.08 ±	6.17	17.29 ±	6.48	n.s
SOC ^{b)}		48.05 ±	8.85	47.24 ±	11.85	n.s
PPC ^{b)}		29.74 ±	5.80	27.94 ±	6.27	n.s
リラックス感 ^{b)}		41.69 ±	8.18	39.54 ±	9.43	n.s
一気分因子 ^{b)}		16.13 ±	4.12	14.06 ±	4.28	**
一緊張因子 ^{b)}		10.65 ±	3.92	11.16 ±	4.22	n.s
一身体感覚因子 ^{b)}		14.92 ±	2.70	14.31 ±	3.81	n.s

注1) a) 数値はn(%), pはカイ二乗検定 b)数値はmean±SD、pはt検定、c)数値はmean±SD、pはMann-WhitneyのU検定

注2) * p<0.05、** p<0.01、*** p<0.001 n.s. not significant

表4 就労経験

		あり (n=110)		なし (n=21)		p
性別 ^{a)}	男性	40	(88.9%)	5	(11.1%)	n.s
	女性	70	(81.4%)	16	(18.6%)	
年齢 ^{b)}		28.72 ±	5.53	25.52 ±	5.27	*
就労意欲 ^{c)}		7.65 ±	2.31	7.22 ±	2.05	n.s
サポステ利用期間 ^{c)}		15.00 ±	18.54	8.05 ±	9.22	n.s
サポステ相談	10回未満	52	(83.9%)	10	(16.1%)	n.s
	10回以上	56	(83.6%)	11	(16.4%)	
生活状況 ^{a)}	規則正しい	22	(84.6%)	4	(15.4%)	n.s
	ほぼ規則正しい	55	(84.6%)	10	(15.4%)	
	あまり規則正しくない	27	(81.8%)	6	(18.2%)	
	昼夜逆転	4	(100.0%)	0	(0.0%)	
SRH ^{b)}		3.30 ±	0.95	3.10 ±	0.85	n.s
GHQ ^{b)}		16.47 ±	6.52	15.67 ±	6.08	n.s
SOC ^{b)}		47.50 ±	10.90	47.43 ±	8.89	n.s
PPC ^{b)}		28.82 ±	6.41	28.43 ±	3.83	n.s
リラックス感 ^{b)}		40.75 ±	9.36	39.19 ±	5.35	n.s
一気分因子 ^{b)}		15.15 ±	4.57	14.19 ±	2.58	n.s
一緊張因子 ^{b)}		10.93 ±	4.20	10.62 ±	3.34	n.s
一身体感覚因子 ^{b)}		14.66 ±	3.47	14.38 ±	2.22	n.s

注1) a) 数値はn(%), pはカイ二乗検定 b)数値はmean±SD、pはt検定、c)数値はmean±SD、pはMann-WhitneyのU検定

注2) * p<0.05、** p<0.01、*** p<0.001 n.s. not significant

表5 就労意欲

		平均/ ρ	SD	p
性別 ^{a)}	男性 (n=37)	7.92 ±	2.22	n.s
	女性 (n=61)	7.36 ±	2.28	
年齢 ^{b)}		$\rho =$ 0.023		n.s
サポステ利用		$\rho =$ -0.218		*
サポステ相談	10回未満 (n=50)	8.08 ±	1.48	n.s
	10回以上 (n=46)	7.07 ±	2.74	
就労経験 ^{a)}	あり (n=80)	7.65 ±	2.31	n.s
	なし (n=18)	7.22 ±	2.05	
生活状況 ^{c)}	規則正しい (n=18)	8.22 ±	2.53	n.s
	ほぼ規則正しい (n=51)	7.63 ±	2.20	
	あまり規則正しくない (n=26)	7.23 ±	2.10	
	昼夜逆転 (n=3)	5.67 ±	2.52	
SRH ^{b)}		$\rho =$ 0.215		*
GHQ ^{b)}		$\rho =$ -0.245		*
SOC ^{b)}		$\rho =$ 0.143		n.s
PPC ^{b)}		$\rho =$ 0.288		**
リラックス感		$\rho =$ 0.241		*
一気分因子 ^{b)}		$\rho =$ 0.249		*
一緊張因子 ^{b)}		$\rho =$ 0.172		n.s
一身体感覚区		$\rho =$ 0.086		n.s

注1) a) Mann-WhitneyのU検定、b) Spearmanの相関、c) Kruskal-Wallis検定

注2) * $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$ 、*** $p < 0.001$ n.s. not significant

表6 就労していない理由

	さがしたが見つからな かった(n=18)	希望する仕事がなく た(n=14)	病気や体調が悪い ため(n=15)	仕事が続けられ ないと思うため (n=15)	急いで仕事につく必要 がないため(n=5)	現在働いている、また は仕事につくことが決 まっています(n=5)	その他(n=13)	無回答(n=42)	p
性別 ^{a)}									
男性	6 (33%)	6 (43%)	8 (53%)	5 (33%)	1 (7%)	3 (23%)	8 (62%)	8 (19%)	n.s
女性	12 (67%)	8 (57%)	7 (47%)	14 (87%)	4 (27%)	2 (13%)	5 (38%)	34 (81%)	n.s
年齢 ^{b)}	26.89 ± 6.31	30.36 ± 6.26	29.80 ± 5.33	26.42 ± 4.51	26.40 ± 9.32	28.40 ± 7.09	27.46 ± 5.84	28.71 ± 4.76	n.s
就労意欲 ^{c)}	8.29 ± 1.59	7.55 ± 1.44	7.17 ± 1.80	5.94 ± 2.21	6.80 ± 1.64	7.00 ± 3.08	7.55 ± 2.94	8.75 ± 2.17	** * ^{d)} 「仕事が続けられそ うにないと思うため」 < 「無回答」 (p<0.001)
サポート利用期間 ^{e)}	7.78 ± 15.04	16.86 ± 21.53	11.73 ± 15.60	16.74 ± 22.95	7.40 ± 9.56	13.25 ± 16.54	7.00 ± 9.72	18.25 ± 17.44	n.s
サポート10回未満	14 (22.6%)	8 (12.9%)	10 (6.1%)	6 (9.7%)	3 (4.8%)	3 (4.8%)	9 (4.5%)	9 (14.5%)	** *
10回以上	4 (6.0%)	6 (9.0%)	5 (7.5%)	12 (17.9%)	2 (3.0%)	2 (3.0%)	4 (6.0%)	32 (47.8%)	n.s
就業経験あり なし	14 (12.7%)	12 (10.9%)	12 (10.9%)	16 (14.5%)	4 (3.6%)	4 (3.6%)	9 (8.2%)	39 (35.5%)	n.s
生活様式規則正しい ほぼ規則正しい あまり規則正しくない 昼夜逆転	4 (15.4%)	5 (19.2%)	2 (7.7%)	1 (3.8%)	2 (7.7%)	1 (3.8%)	5 (19.2%)	6 (23.1%)	n.s
	10 (15.4%)	4 (6.2%)	4 (6.2%)	12 (18.5%)	2 (3.1%)	2 (3.1%)	6 (9.2%)	25 (38.5%)	n.s
	4 (12.1%)	4 (12.1%)	8 (24.2%)	2 (6.1%)	1 (3.0%)	2 (6.1%)	2 (6.1%)	10 (30.3%)	n.s
	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	n.s
SRH ^{b)}	3.17 ± 0.99	3.36 ± 0.84	2.47 ± 0.83	3.26 ± 0.99	3.40 ± 0.55	3.60 ± 1.14	4.08 ± 0.76	3.27 ± 0.84	** * ^{e)} 「病気や体調が悪い め」 < 「その他」
GHQ ^{b)}	17.33 ± 6.65	15.85 ± 6.22	17.80 ± 6.14	17.00 ± 7.18	14.20 ± 9.15	11.20 ± 4.55	13.69 ± 4.61	16.93 ± 6.39	n.s
SOC ^{b)}	46.78 ± 10.28	52.43 ± 14.10	47.20 ± 6.56	44.68 ± 9.52	44.20 ± 6.30	52.20 ± 8.76	51.00 ± 9.99	46.22 ± 11.43	n.s
PPQ ^{b)}	27.00 ± 5.63	30.57 ± 6.00	28.93 ± 4.33	27.74 ± 6.96	25.20 ± 2.95	32.40 ± 5.32	31.69 ± 4.33	28.37 ± 6.80	n.s
リラックス感 ^{b)}	40.94 ± 10.13	44.07 ± 11.92	36.80 ± 6.95	41.32 ± 9.82	41.40 ± 7.93	39.80 ± 7.09	42.85 ± 7.95	39.31 ± 7.67	n.s
一気因子 ^{b)}	15.00 ± 3.88	16.43 ± 5.54	14.07 ± 4.54	14.26 ± 4.49	15.40 ± 4.56	15.80 ± 3.27	16.77 ± 3.44	14.50 ± 4.25	n.s
一緊因子 ^{b)}	10.28 ± 4.47	12.43 ± 5.40	8.93 ± 2.79	11.68 ± 3.90	12.00 ± 3.67	10.00 ± 2.24	11.46 ± 4.59	10.74 ± 3.80	n.s
一身体感覚因子 ^{b)}	15.67 ± 3.41	15.21 ± 3.51	13.80 ± 2.14	15.37 ± 4.06	14.00 ± 2.74	14.00 ± 2.12	14.82 ± 3.20	14.07 ± 3.36	n.s

注1) a) 数値は(%), pはカイニ乗検定, b) 数値はmean±SD, pはt-検定, c) 数値はmean±SD, pはMann-Whitney U検定

注2) * p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001 n.s: not significant

注3) d) 「仕事が続けられそ
うにないと思うため」 < 「無回答」 (p<0.001) e) 「病気や体調が悪い
め」 < 「その他」 (p<0.001)

表7 各尺度間相関係数 (r)

	SRH	GHQ	SOC	PPC	リラクセス感 _{ゆるい}	リラクセス感 _気	リラクセス感 _{緊張}	リラクセス感 _身
SRH	-	-0.394 ***	0.248 **	0.214 *	0.371 ***	0.342 ***	0.347 ***	0.121 n.s
GHQ		-	-0.533 ***	-0.488 ***	-0.628 ***	-0.611 ***	-0.568 ***	-0.147 n.s
SOC			-	0.445 ***	0.607 ***	0.562 ***	0.580 ***	0.181 *
PPC				-	0.558 ***	0.603 ***	0.360 ***	0.265 **
リラクセス感 _{ゆるい}					-	0.798 ***	0.830 ***	0.612 ***
リラクセス感 _気						-	0.517 ***	0.193 *
リラクセス感 _{緊張}							-	0.315 ***
リラクセス感 _身								-

表8 SOC得点 (n= 131)

	n	平均	±	標準偏差	p
年代					
30歳未満	81	48.20	±	11.03	n.s
30歳以上	49	46.31	±	9.75	
利用期間					
短（7か月未満）	64	48.06	±	10.07	n.s
長（7か月以上）	64	46.66	±	11.10	
年代×利用期間					
30歳未満×利用期間短	42	48.17	±	10.60	n.s
30歳未満×利用期間長	38	48.18	±	11.77	
30歳以上×利用期間短	22	47.86	±	9.20	
30歳以上×利用期間長	26	44.42	±	9.84	

表9 利用者年代利用期間別ISOCの特徴

	全体 (n=131)				30歳未満×利用期間短 (n=42)				30歳未満×利用期間長 (n=38)				30歳以上×利用期間短 (n=22)				30歳以上×利用期間長 (n=26)			
	n	平均/相関±標準偏差	p	ρ	n	平均/相関±標準偏差	p	ρ	n	平均/相関±標準偏差	p	ρ	n	平均/相関±標準偏差	p	ρ	n	平均/相関±標準偏差	p	
性別 ^{a)}																				
男性	45	45.29 ± 9.60		0.14	14	46.00 ± 10.87		0.08	10	42.20 ± 8.84		0.43	14	47.29 ± 10.10		0.25	6	43.33 ± 7.58		
女性	85	48.65 ± 10.92			28	49.25 ± 10.49			28	50.32 ± 12.07			8	48.88 ± 7.92			20	44.75 ± 10.58		
就労意欲 ^{b)}																				
サボスタ相談回数 ^{c)}																				
10回未満	62	48.05 ± 8.85			30	49.07 ± 9.68			6	45.33 ± 3.27			22	47.86 ± 9.20			3	44.00 ± 7.00		
10回以上	67	47.24 ± 11.85			12	45.92 ± 12.80			31	49.35 ± 12.40			0	0.00 ± 0.00			23	44.48 ± 10.28		
就労経験 ^{d)}																				
あり	109	47.50 ± 10.90			32	48.34 ± 11.47			33	47.79 ± 11.52			19	48.37 ± 9.74			24	44.71 ± 10.17		
なし	21	47.43 ± 8.89			10	47.60 ± 7.63			5	50.80 ± 14.46			3	44.67 ± 4.04			2	41.00 ± 4.24		
就労していない理由 ^{e)}																				
さがしたが見つからなかった	18	46.78 ± 10.28			9	49.89 ± 11.99			2	44.50 ± 0.71			6	41.17 ± 7.14			1	57.00 ± 0.00		
希望する仕事が見つからなかった	14	52.43 ± 14.10			3	54.00 ± 14.73			3	68.67 ± 14.84			4	49.25 ± 9.67			4	42.25 ± 7.68		
病気や体調が悪いため	15	47.20 ± 6.56			5	43.20 ± 5.54			3	48.33 ± 7.09			5	47.40 ± 6.23			2	55.00 ± 4.24		
仕事が続けられそうにないと 思うため	19	44.68 ± 9.52			8	47.00 ± 10.42			6	42.67 ± 11.50			0				5	43.40 ± 5.81		
急いで仕事につき必要がない ため	5	44.20 ± 6.30			2	40.00 ± 1.41			1	39.00 ± 0.00			2	51.00 ± 1.41			0			
現在働いている、または仕事 につくことが決まっている	5	52.20 ± 8.76			1	59.00 ± 0.00			1	38.00 ± 0.00			1	59.00 ± 0.00			1	55.00 ± 0.00		
その他	13	51.00 ± 9.99			4	53.00 ± 3.56			4	49.50 ± 12.58			4	52.75 ± 13.74			1	42.00 ± 0.00		
無回答	41	46.22 ± 11.43			10	46.90 ± 12.80			18	47.78 ± 10.23			0				12	42.08 ± 11.69		
生活状況 ^{f)}																				
規則正しい	26	54.81 ± 11.33			9	57.89 ± 9.33	*		5	53.80 ± 20.23			7	49.14 ± 7.31			4	57.50 ± 7.55	**	
ほぼ規則正しい	65	45.65 ± 9.95			18	46.22 ± 8.53			18	48.67 ± 10.81			12	47.17 ± 10.94			17	40.76 ± 8.63		
あまり規則正しくない	32	46.31 ± 8.91			11	46.09 ± 11.58			13	46.38 ± 8.63			3	47.67 ± 7.77			4	44.75 ± 4.99		
昼夜逆転	4	42.75 ± 10.59			2	44.00 ± 4.24			2	41.50 ± 17.68			0				0			
SRH ^{g)}																				
		0.25	**			0.32	*			0.29	*			0.07				0.10		
GHQ ^{h)}																				
		-0.53	**			-0.65	**			-0.27	**			-0.57	**			-0.58	**	
PPC ⁱ⁾																				
		0.45	**			0.78	**			0.19	**			0.11	*			0.45	*	
リラクセス感 ^{d)}																				
		0.61	**			0.77	**			0.54	**			0.44	*			0.51	**	
一気分因子 ^{d)}																				
		0.56	**			0.68	**			0.47	**			0.41	*			0.65	**	
一緊張因子 ^{d)}																				
		0.58	**			0.69	**			0.58	**			0.53	*			0.40	*	
一身体感覚因子 ^{d)}																				
		0.18	*			0.48	**			0.18	**			-0.27	*			-0.16	*	

注1) a) 対応のない検定、b) Spearmanの相関、c) 一元配置分散分析、d) Pearsonの相関

注2) * p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

表10 対象者の基本属性・特性

年齢	全体	26.9±6.7 (range:18-37)
(N=24)	男性	27.3±7.1
	女性	26.0±6.4
性別		
(N=24)	男性	16 (66.7)
	女性	8 (33.3)
就労経験		
(N=23)	あり	19 (79.2)
	なし	5 (20.8)
治療中の病気		
(N=23)	あり	5 (21.7)
	なし	18 (78.3)
GHQ (N=23)		13.0±5.2 (possible range:0-12)
PPC (N=21)		30.7±7.0 (possible range:9-45)

注) 表中の数字は平均±SD、またはn(%)を示す

表11 SOCに関連する要因：重回帰分析 (N=23)

	β	p
年齢	.213	0.367
性別	.284	0.367
就労意欲	.234	0.196
就労経験	-.496	0.041 *
GHQ	.715	0.098
PPC	.458	0.244
調整済みR ²	.619	

注) 表中の β は標準化回帰係数

注) *p<0.05

注) 男性=0 女性=1

表12 プログラム実施前後のSOC (N=22)

	前		後		p
	平均	SD	平均	SD	
SOC	50.8	10	54.4	11.3	0.007 **

注) 対応のあるt検定

注) **p<0.01

文献

- 1) 厚生労働省：地域包括ケアシステム,
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ (2018年2月アクセス可能)
- 2) 厚生労働省：新たな地域精神保健医療体制のあり方について, www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai.../0000138403.pdf (2018年2月アクセス可能)
- 3) 厚生労働省：地域若者サポートステーションは若者の職業的自立のお手伝いをします,
<http://www.mhlw.go.jp/seisaku/2013/12/01.html>. (2018年2月アクセス可能)
- 4) 萩典子、大西信行、東川薫, 若年無業者への就労支援と就労決定との関連要因：日本精神科看護学術集会誌, 57(3), p418-422, 2014.
- 5) 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 坂野純子編：ストレス対処力 SOC, 東京：有信堂高文社, 2008.
- 6) 山崎喜比古監修, 戸ヶ里泰典編：健康生成力 SOC と人生・社会. 東京：有信堂. 2017;p14-16.
- 7) Goldberg DP, 中川泰彬, 大坊郁夫日本版著. 精神健康調査票手引：日本版 GHQ, 日本文化科学社, 1985.
- 8) 新納美美, 森俊夫, 企業労働者への調査に基づいた日本版 GHQ 精神健康調査票 12 項目版(GHQ-12)の信頼性と妥当性の検討：精神医学, 43(4), p431-436, 2001.
- 9) Antonovsky A, 山崎喜比古, 吉井清子(監訳):
健康の謎を解くーストレス対処と健康保持のメカニズムー, 有信堂高文社, 2001.
- 10) 小池真規子, 渋谷昌三, 藤巻貴之：リラックス感尺度作成の試みー大学生を対象としてー, 目白大学心理学研究, 3, p1-11, 2007.
- 11) 田中小百合, 榎本妙子, 堀井節子他, 地域住民の健康保持能力(SOC)の強化に関する縦断的検討：日本看護研究学会誌, 33(5), p 75-82, 2010.
- 12) 安保英勇：, 若年無業者の心理的諸特性, 東北大学大学院教育研究科研究報, 60(1), p 317-330, 2011.
- 13) 山崎喜比古監修, 戸ヶ里泰典編：思春期のストレス対処力 SOC. 東京：有信堂. 2011;p39-57.
- 14) 萩典子, 大西信行, 児屋野仁美, 伊藤薫, 東川薫：若年無業者のストレス対処力と精神健康に関連する要因, 日本精神科看護学術集会誌, 58(3), p179-183, 2015.